

ENGETSU XTUNE HITOTSUTENYAMADAI 245M



▲245Mでマダイを掛けた状態 ▼240MHでマダイを掛けた状態

●スパイラルXコア、ハイパワーX、Xガイド、エキサイトトップなど最新のシマノロッドテクノロジーを満載、真の軽さを徹底追求し、感度と操作性を高次元で実現した一つテンヤ専用竿。スピニング4種、ベイトモデル1種の5アイテム。

spec (245M) ◆全長2.45m。継数2。仕舞寸法125.6cm。自重107g。オモリ負荷1.5～12号。カーボン含有率98.6%。本体価格5万9700円。

【カーボンモノコックグリップ】

●軽量・高感度のカーボン一体型リアグリップ。触れている腕や上半身にアタリや海底の情報を伝える



【エキサイトトップ】

●一般的なソリッドに比べ巻き込み強度3倍、巻き込み量5倍を実現(同社比)したタフテック∞を特殊設計した超繊細な軽量高感度穂先



ハイパーフォース LB HYPERFORCE LB

●新機構 EXS (エクス) ブレーキを搭載したレバーブレーキ仕様様のスピニングリール。これまで以上にアクティブかつ繊細なヤリトリを実現し、フォールや素早いタッチアップなどさまざまなテクニックを発展させることができる。

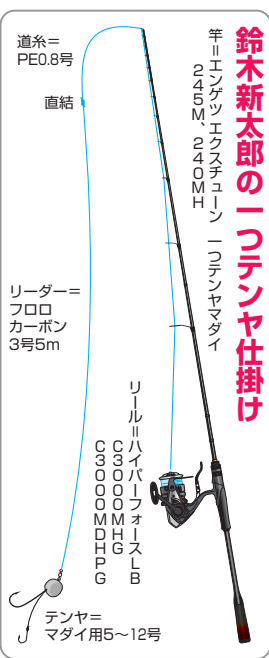
spec (C3000MHG) ◆ギア比6。最大ブレーキ力3kg。最大ドラグ力8kg。自重240g。糸巻き量 (PE) 0.8号230m。最大巻き上げ長 (ハンドル1回転) 89cm。本体価格5万1500円。

【EXS (エクス) ブレーキ】

●従来のレバーブレーキに比べ、無段階でよりスムーズなブレーキ調整が可能。自転車のブレーキのようにレバーを引けばブレーキが強く効き、離せば緩む

【ハイレスポンスドラグ】

●レバーブレーキを使わないときは通常の高性能スピニングリールと同様。滑り出しの軽さと滑らかさに優れたハイレスポンスドラグで魚の疾走をいなす



鈴木新太郎の「一つテンヤ仕掛け」

き、穂先から視線が外れていても手感でマダイのアタリをとらえる一幕があった。  
「エンゲツエクスチューン 一つテンヤマダイで、まず1本を選ぶとすればオールラウンドな240MHでしょう。そこから自分の好みで、しなやかな竿がほしいければ245M、もっとシヤープリアクションの釣りも楽しむのなら235MHと選んでいけばいいと思います」  
潮も風も止まってからは240MHに替え、8号テンヤをキャストしてリアクションの誘いを試しつつマダイを追加。  
その中で鈴木新太郎が終始活用していたのが「ハイパーフォース LB」のレバーブレーキだ。「このリール最大の特徴は、これまでON/OFFだけだったレバーブレーキが、自転車のブレーキのように強さをコントロールできることにあります」  
つまり、レバーブレーキの握り具合でブレーキ力が変わる。強く握れば強く、ブレーキが掛かる

り、弱く握ればブレーキ力は弱くなる。  
「レバーブレーキを活用すれば大型魚の素早く強い引きに瞬時に対応できるため、細糸でも積極的なヤリトリができ、早く寄せることができます」  
また、それ以上に細かな作業性がよくなるのが、実は大きなメリットだと言う。  
「たとえばテンヤを巻き過ぎたとき、レバーブレーキを使えばペイルを返さずにすぐに糸を出して調整できます。底ダチをこまめに取り直していくときも同様。なんだ、そんなことかと思ふかもしれませんが、一つテンヤほど仕掛けの入れ替えを頻繁に繰り返す釣りはありませんから、一日を通すと非常に大きな差になります」  
レバーブレーキ以外は通常の、ドラグ性能に優れた高性能スピニングリール。一つテンヤにおける真の操作性を追求するうえで、新たな、有力な選択肢になることは間違いない。



エンゲツ

●レバーブレーキの握り具合でブレーキ力をコントロールできる

TECHNOLOGY OF S

最新シマノテクノロジーの実証  
テクノロジー・オブ・エス vol.88

一つテンヤの操作性を究める  
最新ロッド&革新のレバーブレーキ  
炎月エクスチューン 一つテンヤ  
ハイパーフォース LB

▲6月一杯まで生きエビが用意される

▲エンゲツエクスチューン一つテンヤマダイの穂先は短く、軽く、鋭敏に進化

●シンプルなタックルとダイレクト感でマダイ釣りに革命を起こした一つテンヤ。その魅力をさらに広げるべく進化を続ける専用ロッドと、革新的なレバーブレーキを搭載したスピニングリールを手し、鈴木新太郎が初夏の九十九里飯岡へ釣行した。



▲水深20メートル以内で楽しめる

ベタナギ快晴の飯岡沖、水深17メートル。鈴木新太郎は5号テンヤに生きエビをセットし軽くキャストする。  
「以前は使うテンヤの重さや深さを目安に竿を選びましたが、この竿はどのモデルも胸が強くブレにくく、振り抜き感が軽快で感度に優れるので、自分の好みやスタイルを優先して選ぶことができます」  
この竿、とは「エンゲツエクスチューン 一つテンヤマダイ」

「振り軽さに加え、この竿は感度が高すぎると言えるほど穂先が目感度でアタリを伝え、目に見えないアタリや変化はクリツプまで竿全体で伝えてくれます。テンヤが底に着いた瞬間はもちろん、底の硬さや潮の抵抗まで伝わってくるという。これら動作の中で感じる情報量の多さを鈴木新太郎は「操作性の感度」と呼ぶ。  
実際、竿を上下させると

レバーブレーキ (EXSブレーキ) とは

